

○ QSLカード印刷 Rig/Ant設定 定義ファイル編集 QSLの定義 条件命令 **各項目** 選択して印刷 プリンタ設定 ADIF

#Print命令系の文字列パラメータでは、以下に示す!で始まる変数が使えます。

その他に#Jpg命令, #Bmp命令, #Load命令のファイル名や#Text命令の文字列中にも同様に使えます。

また縦座標、横座標などの数値パラメータでは、\$\$U~\$\$Zの数値用変数が使えます。

## コールサイン(C)

!cp 半角コールサイン/移動地 (JG1MOU/KH6)

!CP 全角コールサイン/移動地 ( J G 1 M O U / J D 1 )

!PT 移動地 (北海道なら **8** または **JA8**)

!C1 JARL枠1文字目 (全角文字。以下同じ)

!C2 JARL枠2文字目

!C3 JARL枠3文字目

!C4 JARL枠4文字目

!C5 JARL枠5文字目

!C6 JARL枠6文字目

!C7 7文字目 ( !C1 ~ !C9 まで同様)

!C0 10文字目

!c1 JARL枠1文字目 (半角文字。!c1~!c0まで同じ)



※ 他の変数や文字を混ぜなければ、全角のゼロの場合に / が上書きされます。 ("!C1 !C2"のように続けなければ)

※ QSLの項目の1文字目に **M** と入力されており、Remarks 1・2のどちらかに **@JG1MOU** のように入力されてあれば、QSLマネージャー経由と判断し、そのコールサインを印字します。QSLマネージャーのコールサインは、@に続けて3文字以上の英数混在の半角大文字である必要があります。

## 交信年月日(D)

!DY 4桁の年

!Dy 2桁の年

!DM 月 (01~12)

!Dm 月 (1~12)

!DJ 月 (Jan~Dec)

!DD 日 (01~31)

!Dd 日 (1~31)

!DT 年月日 (yy/mm/dd)

## 交信時刻(T)

!Th 時 (0~23)

!TH 時 (00~23)

!Tm 分 (0~59)

!TM 分 (00~59)

※ 年月日時分は、JSTで入力されてあっても、入力ウィンドウのDXにチェックが入力されてある交信相手は、自動的にUTCに変換されて印刷します。

## バンドモード(B)

- !HR** 相手局のRSTレポート
- !hR** 相手局RSTのRのみ (了解度)
- !hS** 相手局RSTのSのみ (信号強度)
- !hT** 相手局RSTのTのみ (トーン)
- !MR** 自局のRSTレポート
- !FR** ピリオド前、または空白前までの周波数文字列 (430.210 → 430)
- !F7** 周波数を指定したバイト数出力 ( **!F4**で4バイト/**!F3**~**!F9**では3~9バイト出力/**!F0**~**!F2**では10~12バイト出力)
- !Fr** 100Hz単位や10Hz単位で入力してあっても、kHz単位までを出力 (7.01234 → 7.012)
- !Bt** 送信波長 (7MHz帯では40m、50MHzでは6m) ※波長はADIF仕様のとおり
- !Br** スプリット運用時の受信波長 (144/430では70cm、430/1200では23cm)
- !MD** 電波型式

## 相手の名前QTH(N)

- !JC** 相手のJCC/Gコード
- !Jc** 相手のJCC/Gコード (町村の場合はJCGコードに変換される)
- !QT** 相手のQTH
- !NA** 相手の名前
- !GL** 相手のグリッドロケーター

## コメント(S) ( **!RG** ~ **!Et** は、 Rig/Ant設定ウィンドウの内容)

- !RG** 自局のR I G (Rig欄)
- !Pw** R I Gの終段入力、または空中線電力等 (Power欄)
- !AN** 自局のアンテナ (Ant欄)
- !Hi** アンテナの地上高 (High欄)
- !Rm** バンド毎のコメント (Rmks欄)
- !Lc** 自局の運用地など (Location欄)
- !Et** バンド毎のコメント・その他 (Etc欄)
- !Co** 印字確認時のコメント

## その他(F)

### **!NO**

レコードナンバーです。(QSOデータの通し番号です。)

**!NO+2000**のように記述すると、実際のレコードナンバーより2,000多い数字を印字します。

**!NO-1500**のように記述すると、実際のレコードナンバーよりも1,500少ない数字を印字します。

### **!No**

**!NO**と同じですが、数字3桁ごとにカンマが入ります。

なお、本ソフトではQSL番号というものは管理できません。(QSL番号用の項目がありません。)

### **!r1**

Remarks 1の文字列全部。ただし、文字列右側の空白はカットします。

### **!r2**

Remarks 2 (**!r1**と同じ)

### **!R1**

Remarks 1に記入した文字列のうち、**%と%**で括った文字列。**%文字列%**が存在しなければ、何も印字しません。

### **!R2**

Remarks 2 (**!R1**と同じ)

## !Rp

Remarks 1 に記入した%と%で括った文字列と、Remarks 2 に記入した%と%で括った文字列を連結します。

例えば、Remarks 1 に%**文字列**%と、Remarks 2 に%**A B C**%と入力してあれば、**文字列 A B C**と印字します。

[例] ? Space! "!Rp" ; 空白でなければ

```
#PrintA 50,800,10,"!Rp移動"
```

## !R1,n1,n2

Remarks 1 の **n1**バイト目から **n2**バイト目の文字列。**n1**はゼロから数えます。数字は二桁で指定し、空白は入れないで下さい。

【例】・・・Remarks 1 を 6 バイト目から 2 2 バイト印字します。

```
#Print 50,850 "!R1,06,22"
```

## !R2,n1,n2

Remarks 2 の **n1**バイト目から **n2**バイト目までの文字列

## !R1\$A

Remarks 1 に記入した文字列のうち、\$A=**文字列** \$の文字列。\$A~\$Zが使えます。

【例】・・・Remarks 1 に \$R=TS-520\$ のように記載があれば、TS-520と印刷する。

```
? Space! "!R1$R"
```

```
#Print 100,900 "使用リグは!R1$Rです"
```

## !R2\$Z

Remarks 2 に記入した文字列のうち、\$Z=文字列\$の文字列。Remarks 1 と同様です。

## !Vr

Turbo HAMLOG/Winのバージョン

## !Nw

今日の年月日 【例】 08/Aug/2018

## !NW

今日の年月日 【例】 2018/09/01

## !nW

今日の年月日 【例】 2018-12-09

## !\$\$A

[#Mov命令で代入した文字列や数値を記憶しています。](#)

**\$\$A~\$\$T**が文字列用で、**\$\$U~\$\$Z**が数値用として使えます。